

平成 29 年度第 3 回（一社）日本生物物理学会理事会議事次第

日時：2017 年 12 月 16（土）12：40～17：15

場所：大阪大学産業科学研究所・インキュベーション棟 1 階講義室  
東京大学工学部 3 号館 601 号室ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 名 出席理事 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	豊島 陽子	理事	中井 孝尚
理事	西坂 崇之	理事	原田 慶恵
理事	坂内 博子	理事	光武 亜代理
理事	宮田 真人	理事	渡邊 宙志

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 木寺 詔紀

監事 七田 芳則

オブザーバー：

欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	金城 玲
中部支部長	廣明 秀一
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治

陪席者：

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者：理事 渡邊 宙志

**報告事項一覧：**

1. 平成 29 年度年会報告（山縣）：**報 1**
2. 平成 30 年度年会準備状況（須藤）：**報 2**
3. 平成 31 年度年会準備状況（永井）：**報 3**
4. 年会における二国間シンポジウム（神取）：**報 4**
5. 出版委員会報告（野地）：**報 5**
6. 科研費申請報告（石渡）：**報 6**
7. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田）：**報 7**
8. 生物科学学会連合連絡会報告（豊島）：**報 8**
9. IUPAB・ABA 関連報告（IUPAB 誘致決算報告）（野地）：**報 9**
10. 啓蒙活動報告（中井・原田）：**報 10**
11. 賞・助成金推薦委員会報告（高田）：**報 11**
12. 地区報告
  - 北海道（神取）：**報 12-1**
  - 中部（廣明）
  - 九州（神取）：**報 12-3**
  - その他
13. 会長室について（神取）：**報 13**
14. テレビ会議について（神取）  
その他

**審議事項一覧：**

1. 平成 30・31 年度編集委員承認選出（野地）：**議 1**
2. 平成 30 年度分野別専門委員の承認（野地）：**議 2**
3. 平成 30 年度事業計画（案）（野地）：**議 3**
4. 平成 30 年度予算（原案）（諏訪・内橋）：**議 4**
5. 平成 30 年・31 年選挙管理委員長の承認（神取）：**議 5**
6. 平成 32 年（2020 年）年会について（神取）：**議 6**
7. 出版委員会関連議題（野地）：**議 7**
8. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）
9. 学会推薦賞・助成金選考内規の変更（高田）：**議 9**
10. 非会員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規について（光武・大上）：**議 10**
- その他

### 定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 16 名により過半数を超えた。

### 定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

### 報告事項：

#### 1. 2017 年(平成 29 年度)年会報告（山縣）：報 1

2017 年度年会実行委員長 山縣 ゆり子 氏より 2017 年度年会報告があった。

- 参加者数は 1,588 名、(28 年度 1,680 名)。
- 懇親会 713 名（うち招待者は 130 名）。
- 海外機関所属者については 9 カ国 35 名の発表があった（28 年度は 38 名）。
- 演題数 1,111 件(シンポジウムに若手奨励賞は含まない)は過去 2 年から微減した。
- WiFi
  - ◇ ID を計 215 用意して対応した。
  - ◇ ID 発行に利用者の氏名・所属・メールアドレスを求め、3 ヶ月保管する必要があったが、もうすぐ情報の保管期間が過ぎるために破棄する。
- 懇親会
  - ◇ 近年の例に倣い飲んだ分だけの請求形式をとり、結果として飲み物代 101 万円かかった。
- 市民講演会
  - ◇ 100 名の会場で 70 名程度が集まって活発な議論が行われた。
- 収支

平成 29 年度第 2 理事会で報告した 10 万円の黒字予定が 55 万円程度の黒字となった。

  - ◇ 収入：去年とあまり変わらない。
  - ◇ 支出：ほぼ予定通りの支出。

最後に理事全員から実行委員会に感謝の意が表せられた。

#### 2. 2018 年度(平成 30 年度)年会準備状況（須藤）：報 2

2018 年度年会副実行委員 須藤 雄気 氏より年会の準備状況に関して報告があった。

- 学会のチラシ・ポスターの概要が完成した。
- プログラムの中に臨時社員総会を入れる予定である。
- 市民講演会に正式に 天野 浩 教授 と 沈 建仁 教授を講演者として招聘する。
  - ◇ 2018 年 9 月 16 日（日）に決定。

- ◇ 600人収容可能な会場（さらに300人収容できる2次会場を準備）。
- ◇ 対外的（特に若者）アピールとして近隣の高校に枠を設けている。
  - 学会員の枠を少なめにし、市民や高校生の枠を多めに設定。
  - エー・イー企画にシステムを依頼。
- シンポジウムの応募を11月6日開始
  - ◇ 共催シンポジウムの募集20～30万の協賛金を予定。
  - ◇ 現在 通常のシンポジウムで内々で4件の応募がある。
  - ◇ 昨年度はシンポジウムの数が多かったので、シンポジウム数を抑える方向で調整中。
  - ◇ 女性や若手を優先的に調整している。
- 年会組織
  - ◇ 過去の中・四国支部の支部長全員に参加を要請した。
- ホームページの開始が報告された。
  - ◇ 演題参加締め切り、事前参加登録締め切りが示された。

### 3. 2019年度(平成31年度)年会準備状況（永井）：報3

2019年度年会実行委員長 永井 健治 氏より2019年度年会準備に関する報告があった。

- 開催地を宮崎のシーガイアに決定したことを確認した。
  - ◇ 最終候補地として残った宮崎と沖縄の中から、宮崎を選定した理由の説明があった。
  - ◇ シーガイア - 宮崎空港はタクシーで20分。
    - （参考）この場所で生物物理学会が開催されたことはないが、過去の生物工学会においては乗合タクシーで対処した。
      - 当学会も乗合タクシーで対処する予定である。
  - ◇ その間でのバスでの運行が非常によくはない。
- 宮崎年会においては市民講座を実施しない。市民講座担当委員は設けない。
  - ◇ 代わりに高校における出張講座を実施し、高校生を学会に招待する。
- 3月12・13日に数名の実行委員が宮崎に出向き宮崎大学副学長 水光 正仁 氏、および出張講座対象高校との打ち合わせを予定している。
- かるうじて黒字になる目算がたったとの報告があった。
  - ◇ 大幅に修正される可能性は残る。
    - 参加費の増額により対処するとの説明があった。

### 4. 年会における二国間シンポジウム（神取）：報4

神取 秀樹 会長より二国間シンポジウムについて現在の状況について説明があった。

- 国際シンポジウムは前会長の中村 春木 氏が精力的に推進してきた。

- ◇ 今まで五カ国（インド・台湾・中国・韓国・オーストラリア）と実施された。
- ◇ 2017年はインド・台湾との合同シンポジウムを日本で行った。
- ◇ 2018年は中国・韓国・オーストラリアとの合同シンポジウムを日本で開催する順番になる。
- ◇ ホスト国までの旅費は参加者の自弁、滞在費はホスト国が経費を負担。
- 日韓について、2016年 榎 佐和子 氏がオーガナイザーとなり筑波で日韓共催シンポジウムを開催した。2017年 ソウルにおいて日韓のシンポジウムを開催（西坂 崇之 氏らが参加）。
- ◇ 岡山年会において日本がホストとなり日韓シンポジウムを開催予定。
  - （オーガナイザー：佐甲 靖志 氏）
- 日中、日豪については調整・確認中。
- 今後もホスト側が滞在費を負担するという原則を確認した。
- 他の理事からのコメント・質問
  - ◇ 滞在費のホスト負担という原則は、他国でも共有されているのかという質問があった。
    - その原則のもと、個別に対応している。
  - ◇ シンポジウム毎にコンセンサスの確認のプロセスが必要かという質問があった。
    - 滞在費負担に関する合意文書はない。
    - 担当者が代わる際には、相手国との確認が必要。

## 5. 出版委員会報告（野地）：報5

野地 博行 副会長より出版委員会について報告があった。

- 生物物理学会誌への提言が若手会員から投稿された。
  - 記事編集への積極的介入
  - ページ制限の緩和
  - インターネットにリンクした記事・雑誌の形態
- ◇ 通常のプロセスで審査を進めている。
- ◇ 編集委員長からの回答を秋山 修志 氏・富樫 祐一 氏が作成。
- BPPB 誌のチーフエディタ 石渡 信一 氏からレポート
  - 今年度の投稿数は 33 件（微増）
  - インパクトファクターへの予備軍として ISCI に申請したと報告があった。
  - Graphical abstract を創設したとの報告があった。
  - Directory of Open Access Journal へ登録したとの報告があった。
  - クリエイティブコモンズ ライセンスの導入。
    - CC BY-NC-SA（表示、非営利、継承）の付与

- ◇ 前回の理事会で BPPB へ掲載される全ての論文へ CC BY-NC-SA が付与することを決めたが、出版委員会において、営利目的の禁止をする NC を付与するのは強い制限ではないかという指摘がなされた。
  - 企業が論文の内容をパンフレット等で記載した場合に営利目的のために使えないという事態が生じうる。
  - 企業メンバーからの投稿が期待できなくなる。
- ◇ 出版委員会としては NC を外すという方針になったことを報告した。
- ◇ SA も厳しすぎる条件であるという指摘が他の理事よりなされた。
  - BPPB の記事中の Figure を引用した場合、常に同等の制限が生じることとなる。
- ◇ CC BY のみのライセンスにすることが提案されたが、方針を変えるのであれば、もう一度 BPPB 委員会に差し戻して議論すべきであるという意見が出され採用された。
- すでに掲載されている論文はすでに CC-BY-NC-SA になってしまっていることに対する対処について疑問が呈された。
  - 投稿当時の条件で応募してきている。
  - 変更する場合は著者の承認が必要になる。
  - すべての著者に再確認するというのは、非現実的。
  - 以上の理由により既に出版された記事はライセンスを変えずに、ある年限以降は、新たなライセンスを付与するという方針が確認された。
- J-stage での新たな表記方法(デザイン)が報告された。
- BPPB 誌に Graphical abstract が導入されたことが報告された。
- BPPB 誌の Open access data base への登録が報告された。

## 6. 科研費申請報告（石渡）：報 6

石渡 信一 氏により科研費の研究成果公開促進費への申請が報告された。

- 不採用だった昨年の反省を踏まえ、練り直した申請内容の報告があった。
- ESCI 取得や Graphical abstract の導入などの情報も盛り込んだ。
- 5年間で 1990 万円の予算申請。

## 7. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田）：報 7

高田 彰二 副会長より男女若手委員会の内容の報告があった。

- 2017 年度年会における男女若手企画について
  - ◇ キャリア支援説明会
    - 今回、初めてアカリクの山内 宗和 氏を迎えて講義をしていただいた。
    - 参加者数も去年よりも多かった。

- ◇ 男女若手のシンポジウム「男女共同参画のミクロとマクロ」
  - パネルディスカッション形式で実施。
  - 活発な議論が交わされたが企画時間が短いという印象が報告された。
  - アンケートの集計で高評価が多かった。
- ◇ 来年の岡山年会の男女若手企画について
  - 年会のシンポジウム企画のアンケートではポスドク問題を取り上げてほしいという声が多かった。
  - 研究者の世代間格差をテーマにしてはという意見がでた。
  - 企画の時間を延長できないかという意見があった。

➤ 男女共同参画学協会連絡会

渡辺 宙志 氏が参加 2017 年 12 月 11 日に開催された男女共同参画学協会連絡会に出席した。

- 学協会連絡会の分担金の増額が提案された。
  - ・ 現在の生物物理学会は年 1 万円の分担金
  - A 案：各学会一律 2 倍, B 案：各学会一律 1.5 倍の 2 案が提案された。
  - 引き上げ時期についても、①：今年度から、②：来年度からの 2 案が提案された。
- 【審議】生物物理学会としては A 案（2 倍）および①（今年度から）を推進していくことが決められた。
- 【審議】52 学会がオブザーバー加盟学会として参加しているが、その位置付けの再考を求める提案を生物物理学会として出すことが決められた。

➤ 一家に一枚ポスター

中村前会長のもとに残されているが、会長室移動作業の際に処理する必要がある。

- 日本語版 4000 部を作成し、現在 700 部ほど残っている。
- 廃棄しなくても、出張授業、夏の学校など様々な場面で活用できるという意見が出た。
- 出張授業の依頼が最近増加しているためポスターを使用する機会も今後増える見込みであると報告された。

## 8. 生物科学学会連合連絡会報告（豊島）：報 8

豊島 陽子 氏が 10 月 7 日に開催された生物科学学会連合（31 加盟団体）の定例会議に出席した内容を報告した。

- 2020 年に長崎で開催予定の国際生物学オリンピックに関する報告があった。
- ◇ 各学会に寄付の要請があった。
  - 生物科学連合として 155 万円の収入のうち 30 万円を寄付することの了承が求められた（12 月中の回答が必要）。

- すでに徴収した会費の中から負担するので、生物物理学会としては新たに負担する必要はない。
- 神取 会長、高田 副会長、野地 副会長の同意のもと了承した旨が理事会に報告された。
- ◇ 生物科学連合の金銭的な負担は小さいが、教育などへの人的な支援が要請された。
- 学術会議関連報告
  - ◇ 学術会議において基礎生物学委員会と統合生物学委員会の合同で、高等学校教育における重要用語の選定をおこなったことが報告された。
    - 今年の 9 月 28 日に報告書として提出された。
    - 各学会員がチェックし間違いがあれば報告することを要請された。
    - 5 年後の教科書に反映される予定。
      - 表現の誤りがあれば豊島 陽子氏に報告。

#### 9. IUPAB・ABA 関連報告 (IUPAB 誘致決算報告) (野地) : 報 9

野地 博行 氏から IUPAB 関連の決算と誘致に対する京都市からのサポートについて報告があった。

- 当該案件事務の下飼手 紀子 氏が収支に関する報告を作成。
- 京都の文化交流コンベンションビューロからの援助助成金交付決定通知書が届き、42 万円の交付となったことが報告された。
- 誘致活動全体としては当初の見込みから 100 万円ほど超過し、上記の 42 万円の助成金により、半分ほどカバーされた。
  - ◇ 神取会長も実際にエジンバラに赴き、経費が有効に使用されていることを確認。
  - ◇ 経理の諏訪氏も承認。

#### 10. 啓蒙活動報告 (中井・原田) : 報 10

須藤 雄気 氏と野地 博行 氏より出張授業における報告があった。

- 大阪府 高槻高校
- 山形県 米沢市
  - ◇ スーパーサイエンススクールの予算があったので、ピペットマン設備等が充実していた。
  - ◇ 10 月以降に依頼件数が増えている。

#### 11. 賞・助成金推薦委員会報告 (高田) : 報 11

東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の推薦について高田 彰二 副会長から報告があ



った。

- 東レ科学技術賞に2名の応募があり、両名とも候補者として推薦した。
- 東レ科学技術研究助成に3名の応募があり、うち2名を候補者として推薦した。

## 12. 地区報告：報12

北海道支部の活動について、姚 関 氏（代理：神取 氏）より報告があった。

- 生化学会との合同シンポジウムを7月7日に開催した。
- 講演会5件を開催。
- アジアでの国際学会での学生発表の支援をおこなった。

中部支部の活動について廣明 秀一 氏より報告があった。

- 3月の1日または5日に名古屋大学で支部会を計画している。

九州支部の活動について、寺沢 宏明 氏（代理：神取 氏）より報告があった。

- 支部例会が2016年5月～2017年4月の間、地震被災のために開催が困難であったと報告があった。
- 支部会計の報告があった。
  - ◇ 地震のために活動困難で支出はなかった。

## 13. 会長室について（神取）：報13

会長室の移転について神取 氏より報告があった。

- 多くの物品を処分し、重要な物品のみ（ダンボール17箱）を名工大に移した。
- 中村 氏の会長在任中に会長室秘書を務めた神瀬 麻里子氏は本人の希望もあり継続雇用する。
  - ◇ 3月までは中村前会長が労務を行い、4月以降は蛋白研の原田 慶恵 理事が労務監督者となり、原田 理事のもとで業務を継続する。

## 14. テレビ会議について（神取）

- 前副会長 永井 健治 氏のご厚意により、前年度と同様に産業科学研究所のテレビ会議システムを利用して今期（2月・4月）の理事会を進めていく旨の報告があった。
  - ◇ 来年以降は神瀬 氏を中心にテレビ会議システムを策定していく。

## 審議事項：

### 1. 2018・2019年度(平成30・31年度)編集委員承認選出(野地)：議1

出版委員会での投票の結果、欧文誌の以下の6名が編集委員候補として選出された。

- (敬称略) 新井 宗仁、杉村 薫、城口 克之、鈴木 団、千見寺 浄慈、渡邊 力也
- また分野の偏りを考慮し水野 操 氏も加え計7名を出版委員として選出する。
  - ◇ 佐甲 靖志 氏に編集委員の人数が増加することによる弊害を問い合わせたところ京都で開催される出版委員会の旅費が増加する点のみとの回答を得た。
    - 大阪の水野氏の場合の旅費は、あまり問題にならない。
- 理事会により上記の7名が編集委員として承認された。

### 2. 2018年(平成30年度)分野別専門委員の承認(野地)：議2

投票結果にもとづく分野別専門委員の承認が行われその結果が野地 氏により報告された。

【審議】既存分野については投票により選出された専門委員が理事会により承認された。

- 新しい分野として「蛍光タンパク質」「細胞内温度」「高速AFM」「プロテオミクス」「生物物理学」の新分野が挙げられた。  
上記の項目を新しい分野として登録すべきか、議論が行われた。
  - ◇ 「生物物理学」という学会名を冠する細目はふさわしくないという意見が出た。
  - ◇ 分野を広げると際限がなくなってしまう。
  - ◇ 過去には専門分野の削減が過去に行われた。本理事会では決定せず、後日メール審議を行う。

### 3. 2018年度(平成30年度)事業計画(案)(野地)：議3

2017年度の事業計画に基づいた2018年度(2018年5月1日～2019年4月30日)の事業計画案が野地 博行 氏によって提出され、審議された。

### 4. 2018年(平成30年)度予算(原案)(諏訪・内橋)：議4

諏訪 牧子 氏より、2017年度予算執行状況と2018年度予算原案に関する報告があった。

- 大きく異なるのはグローバル化推進費。
  - ◇ テレビ会議の導入のために、理事の旅費が削減された。
  - ◇ 2017年度のグローバル化推進費が膨らんだのは、IUPAB 招致と日印・日台のジョイントシンポジウムのため。
- 2018年度はIUPAB 招致の人件費がなくなり管理費が削減される。
- ホームページ委員会からの予算申請は2018年度予算案に含まれていない。

### 5. 2018・2019年度(平成30・31年度)選挙管理委員長の承認(神取)：議5

細則第4章八条に基づき、神取会長により東工大教授 北尾 彰朗 氏が選挙管理委員長として選出された。

## 6. 2020 年年会について（神取）：議 6

2020 年度年会の主催を関東支部（開催地：群馬）、2021 年度年会の主催を東北支部（開催地：仙台）とする原案が神取 氏より提出され、理事により承認された。

- 2020 年度の関東支部の開催について、関東支部長の由良 敬 氏および群馬大学の 大澤 研二 氏の承認が得られている。
  - ◇ 開催地予定の会場建設の着工が予定通り進んでおり、開催の目処がたった。
  - ◇ 万が一に備え、開催地の第二候補は早稲田大学／お茶の水女子大学とする。
- 2021 年度の東北支部の開催予定地は仙台国際センター、会期を 2021 年 11 月 25 日～27 日とし仮予約を行った。

## 7. 出版委員会関連議題（野地）：議 7

I. BPPB の投稿規定に「bioRxiv に preprint を載せて良い」という一文を加える投稿規定案が提出され、理事により承認された。

II. 2017 年度 BPPB の論文賞の選考委員である内橋 貴之 氏と根岸 瑠美 氏の任期満了による交代により、新しい選考委員として大上 雅史 氏と坂内 博子 氏が新しい選考委員のメンバーとして推薦・承認された。

- 秋山 修志 氏と Chun-Biu 氏が、昨年引き続き選出された。

III. 論文賞公募の文案が提案・承認された。

- 今後は公募の英語化を計画しているが、今年度は日本語でのみ公募を行う。
  - ◇ 推薦は学会会員に限られるので、実質的には大きな問題は生じないと思われる。

IV. ホームページ委員会関連議題

- 小池 亮太郎 氏の任期満了による退任にともない、新委員として白井 伸宙 氏が選出され、承認された。
- ホームページの Web page のサーバーディスクの容量の枯渇にともない容量アップが提案され、承認された。
  - ◇ 現在の月額使用料 38800 円が 39960 円に増額される。
- ホームページの刷新が提案された。
  - ◇ デザインとスマートフォンとタブレット端末への対応。
  - ◇ およそ 100 万円の見積もりが出された。
  - ◇ 今後 具体的なデザイン等を株式会社プラグインに提出を求めた後、改めて審

議する運びとなった。

#### 8. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）

報告 7 にて同時に審議された。

#### 9. 学会推薦賞・助成金選考内規の変更（高田）：議 9

学会推薦賞・助成金選考内規の変更が高田 彰二 副会長より発議された。

- 現行の選考（メール審議）では、意見交換と投票が同時に行われ、投票が終わった段階でオープンになる。
  - ◇ 投票前に情報を共有できない問題がある。
- 内規に次の項目を追加するという案が提示された。「賞・助成金選考委員長は、推薦候補案をとりまとめ、投票の実施前に、理事会で意見交換する」
- 今回の理事会での議論を踏まえ、再度、素案を練り直して審議することが決まった。

#### 10. 非会員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規について（光武・大上）：議 10

非会員委員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規策定について光武 亜代理 氏から提言があった。

- 現状は非会員シンポジウムの年会参加費・懇親会費については、各年会実行委員が決定しているが、一貫性がなく実行委員の負担が大きいため、学会で内規を策定すべきという意見がある。
- 過去のデータ
  - ◇ オーガナイザーはほとんど学会員が務めていた。
  - ◇ シンポジウム講演者の 3 分の 1 程度が非会員。
  - ◇ 非会員の懇親会費を会員が負担するという状況が、年会の運営を圧迫している
  - ◇ 非会員に年会および懇親会に参加してもらうことで、正会員の人数を増やすことにつながる。
- 今後 光武氏を中心として継続審議とする。

#### 連絡事項：

次回理事会日程について

2017 年度第 4 回理事会

日時：2018 年 2 月 17 日（13:00～）

場所：大阪大学産業科学研究所・インキュベーション棟 1 階講義室

東京大学工学部 3 号館 601 号室ほか（TV 会議）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:15 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 30 年 1 月 5 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 29 年度第 3 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹 (印)

監事 木 寺 詔 紀 (印)

監事 七 田 芳 則 (印)